

## 編集後記

新型コロナウイルス感染症による行動制限が実施されてから早くも3年たち、当時高校に入学しても自宅待機が続いていた娘ももう卒業という時期になってしまいました。幸い、最近はほぼ通常に戻り、楽しい高校生活を送ることができたようで安心しています。本学でも、今年度は学内もかなり賑わいが戻り、学生の研究活動も再開されたことで、当センターもほぼ例年通りの活況を見せています。学外からの利用や分析相談等も増加し、社会全体の状況が改善されているのを感じます。

振り返ると、これまでの行動制限で利用者が減ることで暇だったかということそのような事は無く、感染対策や自宅勤務対策をはじめ、業務によっては各種講習等のオンライン化や少人数対応など、新しい試みがいろいろ必要になりました。オンライン化は業務によっては非常に効率化、省力化に役立ちましたが、逆に装置の使用方法的指導などでは、対面の重要性も実感した期間でもありました。今後のアフターコロナ時代では、対面とオンライン化をうまく組み合わせ、より快適な環境づくりを進めていきたいと考えています。

学外を見渡すと、公的機関を中心にやっと押印省略の流れが本格的になり、紙での作業を挟まずにいろいろな手続きが可能になってきました。当センターでも押印が必要な書類を無くしていくなどの試みを進めていますが、簡易的なやりとりを実現するには、今度は個人情報保護の壁が立ちはだかります。このあたりも、今後いろいろな技術を取り入れ、利用しやすい環境を作り上げていく所存です。今後とも機器分析評価センターをよろしくご依頼申し上げます。

(田中 記)